

朝日中学校だより

笑顔あふれるあたたかい学校

令和2年7月14日発行



【教育目標】 進んで学び、豊かな心をもった、たくましい生徒

「ならぬものはならぬ」

校長 木ノ瀬隆幸

七月を迎えて、九州地方を中心にこれまで経験したことのないような豪雨に見舞われました。尊い命を失った方のご冥福と、一日も早い復興を心よりお祈りします。

さて今年には新型コロナウイルス感染症対策で授業日を確保するため、終業式が7月31日です。更に体育館床張り替え工事もあります。これからは熱中症と新型コロナウイルス対策の両面を考えてのマスク対応を求められています。そんな中、夏服の間は体操着登校も認め、自転車通学の方は友達との距離がとればマスクを外して良いことにしました。地域の皆様にもご心配をおかけ致しますが、何とぞご理解いただきたいと思ひます。

さて、7月の全校朝会で話したことを以下にお知らせいたします。

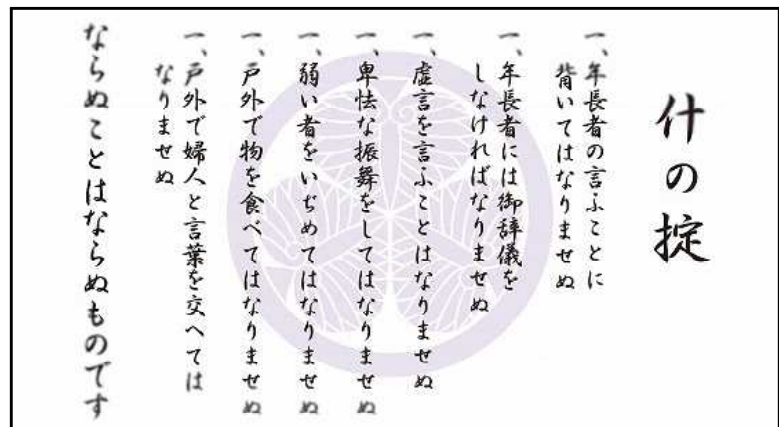
江戸時代の会津藩では、同じ町に住む6歳から9歳までの藩士の子供たちは、十人前後で集まりをつくっていました。この集まりのことを会津藩では「什（じゅう）」と呼び、そのうちの年長者が一人什長（座長）となりました。毎日順番に、什の仲間のいずれかの家に集まり、什長が次のような什の掟という「お話」を一つひとつみんなに申し聞かせ、すべてのお話が終わると、昨日から今日にかけて「お話」に背いた者がいなかったかどうかの反省会を行いました。

反省会の後、「お話」に背いた者がいれば、什長はその者を部屋の真ん中に呼び出し、事実の有無を「審問」しました。事実間違いがなければ、年長者の間でどのような制裁を加えるかを相談し、子供らしい次のような制裁を加えました。

一、無念（むねん）、みんなに向かって「無念でありました。」と言って、お辞儀をしてお詫びをします。二、竹箆（しっぺい）いわゆる「シッペ」です。三、絶交（ぜっこう）いわゆる「仲間はずれ」でした。四、その他に火鉢に手をかざす「手あぶり」や「雪埋め」というような制裁もありました。

子供にとって仲間たちから受ける審問は辛いものがありますが、「お話」も「制裁」もすべて大人たちに言われてつくったものではなく、子供たちが制約や強制を受けずに自分たち自身で作り、「会津武士の子はこうあるべきだ。」ということを互いに約束し、励み合ったことに意味があります。現代の日本は民主主義国家ですので、会津藩の教えには今の理屈に合わないものもあります。でも共通することもあります。私たちにとって「ならぬものはならぬ」に当てはまることは何でしょうか？「朝日中学校の生徒はこうあるべき」を意識して、学校生活のきまり見直しに取り組み始めました。

誰もが居心地が良く、困っている人が困らなくなる学校を目指してきましょう。



朝日中学校では、日々の取組をホームページに掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.city.murakami.niigata.jp/asahi/asachu/index.html>



「新しい様式」の生徒総会

6月19日(金)

全校生徒が出席する生徒総会が行われました。今回はこれまでと異なることが2つありました。

1つ目は生徒会長の提案で、書記局は今年の生徒会スローガンを設けないということです。

2つ目は「より良い学校生活のための提言」という議題が設けられ、多くの意見が寄せられました。(3階の冷水機設置、男子トイレの扉の修繕、他学年の階や他のクラスに入っても良いか、学校に入ったら靴下は自由にしたい、体操着登校を認めて欲しい、自転車通学でマスクを外して良いか等)。今後、その要望に対する方針を検討していきます。

なお、環境省の方針を受けて、夏季限定で自転車通学はマスクを外しても良いことにしました。ただし、小学生や他の方とすれ違うときには相手に失礼のないように着用することを伝えました。バス通学の方は密閉空間なので、常にマスク着用です。今日は特に3年生の成長を実感した一日でした。



第一回学校運営協議会を開催しました！

6月24日(水)

本校初の学校運営協議会を開催しました。当初は4月に実施予定でしたが、新型コロナウイルス対策のため延期になっていました。委員の方は職員3名を含む13名です。これまでの学校評議員制度とは異なり、校長の経営方針や教育課程の編成に意見をいただき、基本的な方針に対して承認を得て活動を進めることとなります。

校長から「なぜ本校は『自律する生徒の育成』を目指すのか」を説明させていただき、その後、協議をいたしました。その結果、基本方針が承認されました。

朝日地区に思い入れのある委員の皆様から、様々な立場から大変貴重なご意見を頂戴しました。今後の経営に反映させて参ります。ありがとうございました。



避難訓練を行いました

6月26日(金)

6時間目に避難訓練を行いました。雨の影響で避難先を体育館としました。非常ベルが鳴った後に放送機器のトラブルで指示がしばらくできず、各階へ先生が走り避難先を指示するという緊急事態でした。生徒は真剣に参加していました。

救急救命士の方から全体指導をいただいた後は、学年ごとに分かれて玄関前のピロティで、代表者が水消火器を使った訓練を行いました。



部活動決意発表会 6月30日(火)

7月11日から18日にかけて、部活動毎に郡市内の学校が対象の練習会が行われています。これは3年生のための活動の締めくくりという意味を持っています。今日は応援委員会の企画で、激励会の代わりに、運動部の部活動決意発表会を行いました。応援委員長のお趣旨説明の後に、各部長から、練習会に臨む熱い思いを語ってもらいました。

最後に、応援委員長の合図で、大きな拍手を選手に送りました。

先輩たちがそうであったように、最後まで粘り強く試合をして、「朝日中学ここにあり」を示してほしいと思います。健闘を祈ります。



体育館の床工事 7月2日(木)～8月31日(月)

7月～8月の2ヶ月間、体育館の床工事を行っています。30年間、朝日中学校の生徒の活動を支えてきた体育館ですが、長年の使用のため今回床を部分的に張り替えることとなりました。工事中は全校朝会、生徒朝会などは放送での実施となります。また、部活動や体育は朝日総合体育館のご協力を得て行うこととなります。雨の日の休み時間などは体を思いっきり動かすことができません。新しくなった体育館の完成が待ち遠しいです。



1年後の未来は描けましたか？ 高校説明会 7月2日(木)

3年生は村上市総合文化会館大ホールにて、6つの高校の説明会を行いました。体育館工事が始まったため、急遽会場を変更させていただきました。高校からは各校の校長先生や教頭先生から、各校20分ずつご説明をいただきました。

各校とも個性が溢れ、一人一人が成長できる学校であることが十分に伝わってきました。その中で、ある高校の校長先生が話された、「高校で学ぶ3つの意味」が印象的でした。1つ目はできないことができるようになること、2つ目は仲間との絆づくり、3つめは親への感謝とのことでした。

一人一人が1年後の未来を描くことができたでしょうか？参加いただきました19名の保護者の皆様、ありがとうございました。



体育祭チーム抽選会を実施しました！ 7月10日(金)

朝の時間帯を使って、学年ごとに多目的ホールに分かれて、体育祭のチーム抽選会を行いました。3年生はジャンケンに勝った1組の団長が、級友に多数決を求め、青となりました。その結果、偶然にも、各学年1組が青軍、2組が赤軍となりました。さて、30周年記念となる今年の体育祭の勝利は、赤・青どちらの手に渡るのでしょうか？今からとても楽しみです。



シリーズ 私の青春時代 第3回

「シリーズ 私の青春時代」、令和2年度第3回は、渡邊 孝志先生です。

わたしの青春時代



高校時代



現在

中高と陸上競技部に所属していた。中1の頃は長距離選手を目指していたが、内科検診ではいつも自分の時は聴診器を当てられる時間が長く、学校医は首をかしげながら診察していた。顧問も「おまえの心臓は怪しいので長距離から短距離に移れ」と言われた。高校では各中学校のエースが集まっているので短距離をやっても大会に出場することができないことがわかったので「やり投げ」を選んだ。元々投げることは嫌いじゃなかったので結構楽しみながら練習をしていた。1年生の新人戦では今でも覚えているが39m80という記録を出し、1年先輩の記録を超えて入賞した。結構周りから期待をされた。40mを超えることを目標に練習したが、2年では40mを超えるどころか1年の記録さえも超えられなかった。ただ、練習は休まず参加した。

3年になっても毎日投げていた。半ばやけくそになりながら。ところがある日40mを超えたのだ。予期せずである。それから40m以下の記録を出すこともなく、最後には47m超えの記録を出した記憶がある。

上達曲線というものがある。練習をしていると急激に伸びるときと全く伸びないときがある。いくら練習しても伸びない時をプラトー（高原状態）という。俗に言うスランプと言われるものだ。選手の技能が高まるのはこのプラトーの時、いかに我慢して練習を続けていけるかであり、このときに精神面も鍛えられるのだらう。

「継続は力なり」は本当にそうだと実感した経験であった。

大学では社会体育に興味を持ち、キャンプ場に駐留するキャンプインストラクター、YMCAや日本レクリエーション協会のキャンプの手伝いをして過ごした。

